

令和5年度 今治市野間馬ハイランド指定管理者モニタリング結果

施設名	今治市野間馬ハイランド
所在地	今治市野間甲8番地
指定管理者	<p>名 称 野間馬保存会</p> <p>代表者 会長代行 大澤正弘</p> <p>住 所 今治市阿方甲246番地1</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運營業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。</p>
担当部課 (問合せ先)	<p>今治市 総合政策部交流振興局 観光課</p> <p>TEL : 0898-36-1541</p> <p>E-mail : kankou@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	A	施設の設置目的や管理運営の基本方針を十分理解して指定管理者業務を実施している。	A	適正に業務が実施されており、平等な利用の確保や施設の設置目的に沿った管理運営がなされている。
利用状況	B	利用者は少し回復し、昨年の約125.8%となった。1年を通して利用者はいたが、特に1月、2月の河津桜の時期は観光バスが連日たくさん入って賑わった。また、乗馬できる馬が高齢になり、連日多くのお客様を乗せることができないためGWは休止した。	B	高齢になっている野間馬の乗馬による体調管理を優先として、主要事業である乗馬を休止したことは、指定管理者としての管理運営について評価できる。今後は乗馬以外にも集客できる事業の開発に努めていただきたい。
事業収支	A	野間馬保存会の経理に関しては、越智今治農業組合乃万営農センター長が担当しており、会計帳簿の整理や会計伝票の作成、印鑑の管理などを適切に行った。また、収支計画に基づいて予算執行を行い、今年度も今治市から飼料価格高騰に対する補助金があったので、無事に施設の管理運営をすることができた。	A	令和5年度も飼料価格が高騰したため、補助金を支出して業務継続を支援した。各団体等との連携に取り組み、収入増に努めていることは評価できる。今後も物価高騰は続くことが想定されるため、野間馬の飼育を第一に考え、これまで以上に経費削減に努め、計画的な予算執行に努めていただきたい。
管理運営体制	B	管理運営体制について一定水準の取組を行った。外部研修は宮古島へ初期調教の講習会へ参加した。また、オンラインで飼養管理の講習会があり、有益な情報を得ることができた。内部では削蹄の技術研修を実施した。	B	業務の運営に支障の無いようローテーションが組まれているとともに、障がい者雇用の前向きな取組などは評価できる。しかし、一昨年から職員数が減少していることが、職員の負担増になっていないか心配であるため、職員の補充に努めていただきたい。職員数が減少している中、内部研修の実施やオンラインでの講習を受講するなど、研修体制についても評価できる。
管理運営業務	A	管理業務については、業務基準に則り業務を実施している。特に植栽管理及び清掃管理業務については、職員全員で積極的に取り組んでおり、管理運営の基本方針にあるとおり、清潔感のある人の目が行き届いた公園の管理ができた。	A	職員一丸となって公園を管理しており、いつも手入れが行き届いていることは高く評価できる。当施設は公園利用としての利用者も多いことから、来園者にとって憩いの場となるよう、今後も公園管理を徹底していただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
利用業務	B	<p>コロナが5類感染症移行となり、団体のお客様が少しずつ戻ってきた。人は動くようになったが、行動範囲が広がったせいか、土日祝日は予想よりお客様が少なかった。しかし、河津桜が咲いている時期は、連日大型バスが入り、大変賑わった。また、無料の観光雑誌に情報掲載、撮影や取材対応は積極的に実施したが、もう少しホームページで更新の頻度をあげて野間馬ハイランドを紹介する様に努めたい。</p>	B	<p>高齢になっている野間馬の乗馬への体調管理のため、ちびっこのまうま祭りを開催できなかったのは残念であるが、無料広告への掲載やメディア等への取材対応を積極的に受け入れたことは評価できる。 今後はホームページの更新の頻度を増やし、SNSを積極的に活用するなど、今後も施設のPRを図っていただきたい。</p>
飼育管理業務	A	<p>鹿児島大学や岡山理科大学、日本馬事協会等と連携し、野間馬の繁殖に努めた。また、岡山理科大学には、採血等による健康管理や仔馬の死亡原因究明のため死亡馬の解剖を依頼した。馬にストレスが少なく健康に生活できる環境を考えて、飼育・繁殖に取り組み、適正頭数を維持するように努めた。</p>	A	<p>市指定文化財である野間馬の頭数維持のため、専門機関と連携した健康管理などの各取組に対する体制ができつつある。今後も計画的な繁殖や利活用馬の調教などの課題に対して、種の保存と利活用のバランスを考慮しつつ、専門機関の知見を取り入れることにより、解決できる体制の構築を図っていただきたい。</p>
その他業務	B	<p>防災マニュアルについては見直しを行い、省エネ対策については、物価高騰の影響を最小限に抑えるため、必要なもの（馬の暑さ対策のためのミスト等）以外には節約するように全職員に徹底した。 また、乗馬については、高齢になっている野間馬の体調管理のため人数制限を行い、GWについては行列になるため乗馬を休止した。8月・9月は猛暑のため短縮営業とし、野間馬の健康管理を優先した。</p>	B	<p>防災マニュアルの見直しを行ない、経費節減に努め、種の保存を優先し、当施設が安心・安全に運営できたことは高く評価できる。 今後も施設の適切な運営に努めていただきたい。</p>
修繕業務	A	<p>施設の老朽化による修繕や部品の交換を行なった。特に、衛生面を考慮し調教馬場の砂の入れ替え、野外灯の漏電修繕等を実施した。</p>	B	<p>当施設は老朽化が進んでいる部分が多くなってきているが、積極的に修繕を実施してもらえたことは評価できるが、施設の修繕については市と協議して実施するように努めていただきたい。 今後も予算の状況を見ながら臨機応変に対応していただきたい。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
備品管理業務	B	一定水準での取組を行うとともに、既存物品については点検を行い、適切に使用した。	A	補助金を活用して備品を購入するなど適切に備品の整備ができている。 引き続き、備品の適正な購入及び管理をお願いしたい。
自主事業	B	自主事業として「のまうまの日（無料体験乗馬）」の実施、のまうま新聞の発行を行い、一定水準の取組を行った。	B	定期的な自主事業の実施により、野間馬のPRに努めている。 今後は新たな自主事業の開発に取り組み、利用が増えるよう努めていただきたい。
地域団体との連携	A	市内教育機関の遠足や職場体験、地元乃万小学校の総合学習や野間馬クラブの受け入れ、地域清掃活動への積極的な参加や地域活動への場所の提供などを通じて、地域団体と良好な関係が築けた。	A	市内教育機関の職場体験の受け入れや、地元小学校との連携について評価できる。 今後も地域との連携が途絶えることのないよう、良好な関係の維持を図っていただきたい。
利用者アンケート	B	アンケート結果については満足いくものであった。また、日々のミーティングにおいて利用者の満足度向上に向けて取り組んだ。 施設の要望については迅速に対応した。	B	施設に対して好印象であるとするアンケート結果が多く評価できる。 今後も利用者満足度の高水準を維持し、利用者意見については早期対応をお願いしたい。
事故・苦情	B	朝礼、終礼のミーティングにおいて気が付いた事を共有し、問い合わせがあった場合、適切で丁寧な対応ができる体制を構築した。	B	事故の発生がなく、施設を安全に運営できたことは評価できる。 万が一の状況を想定し、職員間で適切な対応が取れるよう、引き続き情報共有できる体制の構築に努めていただきたい。
指定管理者の経営状態			事業報告書を確認した結果、指定管理者として適切な管理運営が実施できていると認められた。	

総合コメント (市)

指定管理者である野間馬保存会は、今治市野間馬ハイランド条例及び施行規則並びに業務仕様書に基づき、施設の特徴を踏まえた管理運営に努めており、指定管理業務は適正に実施されていると認められた。前年度までのコロナ対策に続き、今年度も高齢になっている野間馬の乗馬への体調管理のため、夏場の乗馬体験の短縮や、ちびっこのまうま祭りを中止とするなど、市指定文化財である野間馬の種の保存を優先して、管理運営を行なったことは評価できる。

今後も鹿児島大学や岡山理科大学、日本馬事協会等の専門機関と連携し、野間馬の種の保存と観光資源としての野間馬の利活用のバランス調整に努めていただきたい。

指定管理者選定審議会による総合評価

B

書類審査、指定管理者による事業説明、現地確認及び質疑応答等により管理運営状況を精査した結果、指定管理者は指定管理業務を適正かつ確実に実施されていると認められた。市指定天然記念物である野間馬の保存と活用のバランスを重視し、公園管理を含めた野間馬ハイランドの施設管理に、職員が一体となって尽力されている点や、物価高騰の中、経営努力して適切な運営がなされていることが評価できる。野間馬ハイランドは野間馬とふれあえる貴重な施設であるため、陽を遮るような設備等の生育環境の改善を図るなどして、馬にも来場者にも喜ばれる施設を目指してほしい。また、今治市内に設立された岡山理科大学獣医学部とは、これまで以上に連携を密に取りながら種の保存に取り組んでいただきたい。